

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

#### 全国・本市の実技調査の結果

##### <男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
本市	15.98	19.39	34.42	40.27	49.36	9.54	150.13	21.81	53.10

##### <女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
本市	15.88	18.39	38.51	38.13	38.67	9.79	142.58	13.44	54.32

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動への関心・意欲・態度に関する項目では、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、「好き」や「やや好き」の割合が男女ともに全国平均をやや下回っていた。</li> <li>・1週間の総運動時間に関する項目では、「学校の体育の授業以外で、運動やスポーツを1日おおよそどのくらいの時間していますか」に対して、男女ともに、平日は全国平均を上回る日が多かったが、土日は全国平均に比べ低くなっていた。週末にも遊んで運動することができるような啓発が必要だと考える。</li> <li>・健康に関する項目では、「朝食は毎日食べますか」に対して、「毎日食べる」の割合が、男子は全国平均を上回り、女子は全国平均を下回った。一方で、「毎日どのくらい食べていますか」に対して、8時間以上と答えた児童の割合は、男子は全国平均を下回り、女子は全国平均を上回っていた。</li> <li>・「平日、学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ているか」に対して、視聴時間が全国平均を大きく上回っていることから、児童の周りには様々なメディアが、運動時間を確保できない要因の一つになっていると考えられる。</li> <li>・体育の授業に関する項目では、「体育の授業は楽しいですか」に対して、「楽しい」や「やや楽しい」の割合は、男女ともに90%以上で、肯定的な回答が多くを占めていた。それに加えて、「どんなときに体育の授業が楽しいと感じますか」に対して、「できなかったことができるようになったとき」や「友達と交流したり、協力できたとき」と肯定的な回答をした児童が、男女ともに90%以上と高い割合だった。</li> <li>・「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」に対して、「いつも」や「だいたい」進んで学習していると答えた児童が男女ともに100%だった。「体育の授業で、目標(めあて)を意識して学習することで、『できたり、わかったり』することがありますか」に対して、「いつもある」や「だいたいある」の割合が90%を超す高い割合だった。</li> <li>・「体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで『わかったり、できたり』することがありますか」に対して、「いつもある」や「だいたいある」の割合が、60%以上だった。児童一人一人にあった方法を選びながら、「できた」と達成感を味わえるように、個別最適化しつつも協働的に学び合う体育科の学習を今後も行っていく必要がある。</li> </ul>

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・運動場や体育館、どのような学びの場においても、「めあて」「まとめ」「振り返り」を定着させた学習を行う。特に、児童一人一人にめあてをもたせ、運動できるようにする。

・授業の中で、ICT機器を活用することで、自分の動きを客観的に見たり、ペアやグループで教え合ったりすることによって、自分自身の課題を見付け、「動きの質の向上」を図るようにする。

・個の体力に応じた活動を行うことができるように、学習の場を工夫する。達成感をもった学習となるようにする。

・新体力テストの結果を受けて、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする体づくり運動を充実させる。

・新体力テストでは、測定方法や場の設定に関する職員研修を行うとともに、体力測定週間を設け、全学年で取り組む。また、全国平均の記録や各学年の記録を掲示することで、意欲の向上を図るようにする。

### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・週に1回(毎週火曜日)の中休み、全校外遊びを行い、外での活動に意欲的に取り組めるよう働きかける。

・1月の中休みは、「みんなで走ろう週間」として、全校で5分間走に取り組み、体力を向上しようとする児童の育成を図るようにする。その際、マラソンカードやなわとびカードを作成、活用し、週末での運動も進んで行うようにする。